

令和5年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

勤務医を取り巻く環境は、医療安全対策、研修医の指導、自らの生涯教育のあり方など、課題が多岐にわたっている。特に医師の働き方改革については、24年4月の施行を目前に控え、厚生労働省、日本医師会等の様々なセクションでの議論と並行して、各医療機関で「宿日直許可」「救急医療」「自己研鑽」「タスクシフティング・タスクシェアリング」などの対応がなされている。医師の健康への配慮と地域医療提供体制の維持という両立が難しい課題に、多角的に検討を重ね、全ての医師が一丸となって向き合っていかなければならない。

勤務医部会としては、いかなる状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取り組んでおり、今後も継続的に協議し、府医と連携しながら、必要に応じて行政へ提言していく。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来39年を迎えた。部会員数、即ち、B・C会員数は、令和6年1月1日現在、2,002名（昨年より9名増）で、京都府医師会総会員中、45.7%を勤務医部会員が占めている。しかしながら、依然として全国平均の54.6%（令和5年11月1日現在での日医集計による）と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、勤務医の組織率が低い状況にある。

過去8年間の勤務医部会会員数の推移

年	勤務医部会会員数	京都府医師会総会員数	割合
令和6年	2,002名	4,383名	45.7%
令和5年	1,993名	4,372名	45.6%
令和4年	2,024名	4,400名	46.0%
令和3年	2,013名	4,399名	45.7%
令和2年	1,962名	4,369名	44.9%
令和元年	1,942名	4,367名	44.4%
平成30年	1,891名	4,339名	43.6%
平成29年	1,795名	4,243名	42.3%

※基準日：1月1日現在

3. 部会役員

松井道宣勤務医部会長のもと、幹事長に若園吉裕氏、副幹事長には出島健司氏、沢田尚久氏、白神幸太郎氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。

なお、任期は府医役員に準じ2025年6月定時代議員会までとなる。

勤務医部会幹事会名簿

(令和6年3月1日現在)

役職	氏名	医療機関
部会長	松井 道宣	京都府医師会長／同仁会クリニック
幹事長	若園 吉裕	京都桂病院
副幹事長	出島 健司	京都第二赤十字病院
〃	沢田 尚久	京都第一赤十字病院
〃	白神 幸太郎	京都医療センター
幹事	山崎 正貴	京都鞍馬口医療センター
〃	松本 恭明	堀川病院
〃	清水 恒広	京都市立病院
〃	飯沼 昌二	洛和会丸太町病院
〃	清水 聡	新京都南病院
〃	永田 一洋	康生会武田病院
〃	藤田 陽太	日本バプテスト病院
〃	谷川 徹	北山病院
〃	内田 敦子	内田病院
〃	兼子 裕人	愛生会山科病院
〃	一瀬 増太郎	洛和会音羽病院
〃	馬場 一泰	医仁会武田総合病院
〃	大野 智之	京都済生会病院
〃	金 修一	宇治武田病院
〃	濱田 拓男	六地藏総合病院
〃	鹿野 勉	京都岡本記念病院
〃	石原 潔	京都山城総合医療センター
〃	久保 恭臣	亀岡市立病院
〃	計良 夏哉	京都中部総合医療センター
〃	高升 正彦	綾部市立病院
〃	阪上 順一	市立福知山市民病院
〃	富士原 正人	京都ルネス病院
〃	加藤 雅之	舞鶴共済病院
〃	酒井 克之	舞鶴医療センター
〃	堅田 和弘	京都府立医科大学附属北部医療センター
〃	小濱 和貴	京都大学医学部附属病院
〃	高山 浩一	京都府立医科大学附属病院

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

令和5年度も幹事会を2回、正副幹事長会を3回開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。特に医師の働き方改革については、個々の医療機関が抱える問題と地域の救急医療体制の確保の観点から、医師会や行政に求められる役割を整理し、継続的な議論が必要との提言がなされた。

開催日	会合名	協議事項
5.9.30	幹事会	(1)令和5年度勤務医部会事業計画について (2)医師の働き方改革について (3)医師会の組織強化について (4)令和5年度勤務医部会総会の開催について (5)京都医報『勤務医通信』の執筆依頼について
5.12.16	幹事会	(1)令和5年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の状況について (2)令和6年度診療報酬改定について (3)令和5年度勤務医部会総会の企画について (4)医師の働き方改革について (5)令和7年度以降の臨床研修医の募集定員等の見直しについて

5. 京都府医師会への入会促進

2016年度より始まった初期研修医の医師会費無料を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、令和5年度新研修医80名の入会を得ることができた。

6. 第49回京都医学会への演題発表

今年49回目となる京都医学会は9月24日(日)に開催。今回は4年ぶりに現地参加いただける形で開催し、会場に賑わいが戻った。また、会員の利便性の観点から、全プログラムをライブで配信するとともに、その後1ヶ月間にわたってアーカイブ配信を行った。

今回の特別演題は『医療DXの可能性と限界』というテーマで日本医師会総合政策研究機構の原祐一氏にご講演いただいた。

シンポジウムは『臨床現場の医療DXの現状』というタイトルで、京都府立医科大学大学院医学研究科循環器内科講師/京都府医師会学術生涯教育委員会委員の白石裕一氏を総括者として、京都大学医学部婦人科学産科学教授の万代昌紀氏、京都府立医科大学大学院医学研究科内分泌・代謝内科学講師の濱口真英氏、洛和会音羽病院心臓内科副部長の栗本律子氏にそれぞれお話を伺った。

一般演題は、勤務医から57題(初期研修医7題含む)の応募があり、いずれも日常診療に基づいた興味深い取り組みや貴重な症例報告であった。

また、新企画として、若手医師、勤務医、開業医の交流の一環となるよう「Re-1 グランプリ」「臨床研究道場」を実施。

Re-1 グランプリは、若手指導医自身が学び直しを行う企画で、工夫を凝らしたレクチャーとユニークな演出に、会場では立ち見が出るほど盛況となった。オンライン投票による“最もよかったレクチャーを行った指導医”には松井会長から「教育情熱賞」が贈られた。

臨床研究道場は、研究や学会発表、論文作成といった学術活動を支援する試みで、研究立案や解析、解釈のポイントについてサポートした。

7. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

8. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

令和5年10月7日(土)、青森県で開催された令和5年度全国医師会勤務医部会連絡協議会(青森県医師会主管)に若園幹事長および上田府医副会長、尾池理事、事務局が参加した。協議会はメインテーマを「2024年、変わる勤務医、輝く勤務医」とし、医師会組織強化や働き方改革の課題などについて、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論がなされた。なお、協議会当日には「あおもり宣言」が提案された。

9. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

令和5年5月24日(水)、令和5年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、北川府医副会長(当時)、内田府医理事、事務局が参加した。

今村日医常任理事からは「医師会の組織強化に向けて」、城守日医常任理事からは「医師の働き方改革について」の講演が行われた。